

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

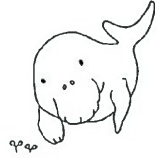
ジュゴン Vol.79

ちゃんぷるニュース



2015. 3. 24

CONTENTS



- 2/3 環境監視等委員会の議事録公開
- ジュゴン訴訟却下の判決
- 4/5 辺野古現地から
- 東京・大阪で同時アクション
- 6/7 大浦湾のジュゴン
- わんさか通信★ジュゴンのわ
- ジュゴンスタディツアー報告

3月12日、翁長県知事の作業中止要請を全く無視し、防衛局は昨年9月から中断に追い込まれていたボーリング調査を再開させた。日米両政府はこれに合わせるようにこの間、海とゲート前での市民の抗議行動に対する暴力、弾圧を強めてきている。海では抗議するゴムボートへの海保高速艇による襲撃。転覆させたカヌー乗員への海中への抑え込み。寒中での長時間に及び拘束と体調不良による救急搬送の続出等々不測の事態の発生を承知の上での蛮行に出ている。

平和の敵は無関心 あはごんしょうこう (阿波根 昌鴻)

ゲート前では、米軍支配下の雇用警備員による山城博治沖縄平和運動センター議長らの拉致拘束に見られるように米軍が市民への弾圧に直接乗り出し、抗議行動の拠点となっているゲート前テントへの沖縄総合事務局北部国道事務所を使つての排除の動きがある。この間、北部国道事務所は三十数人体制から三百数十人体制に増強され強制撤去の構えを見せるとともに職員が基地内に常駐するなど完全に職務範囲を超えた市民への弾圧を目的とした動きを見せている。

しかし、県知事の作業停止指示を無視した作業続行や弾圧、そしてこれに抗議する我々市民の非暴力の抵抗はさらに多くの県民の怒りと結集を誘い、「建白書の実現を目指す島ぐるみ会議」による那覇発辺野古行チャーターバスは連日の運行となり、さらに宜野湾市、うるま市、沖縄市などからも運行、毎日ゲート前には100名から200名の県民が駆け、新基地阻止へ不退転の決意で臨むとする翁長県政を支える力になっている。また、島ぐるみ会議は全国キャラバンを展開し本土に打って出る準備をしている。

『平和の最大の敵は無関心である。戦争の最大の友も無関心である。』と語った阿波根昌鴻の言葉をしっかりと受け止め、日本政府と本土御用メディアによって意図的に作り上げられている『無関心の壁』を打ち破り、まさに一人一人が『五本の指』の1本1本となって、日本の戦争国家への道を拒否し、安倍政権をうちたおすために全力でたたかい続けることを決意し、ここに宣言する。」これは、先日伊江島で開催された「わびあいの里」学習会の平和宣言の一節だ。
(沖縄 高垣喜三)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



キャンプ・シュワブ・ゲート前の抗議行動



わんさか大浦パークでジュゴンマスコット教室(6面)

情勢

「環境監視等委員会は工事を進める隠れ蓑」

3月9日、沖縄防衛局は第2回、第3回環境監視等委員会の議事録を公開しました。

翌日の地元二紙は「アンカ一流失や海底損傷を把握」(琉球新報)、「開催から9か月」(沖縄タイムス)など書いています。私たちが取り組んできた沖縄防衛局交渉や防衛省交渉、沖縄県交渉の成果です。議事録公開に時間がかかった理由は、環境影響評価書を批判する発言「工事の影響はないということはある前提で最大限の避難措置をとるという方針が必要」(第2回委員会)が出たからです。これは、環境監視等委員会委員長をはじめ多くの委員が防衛省の審議会「辺野古・環境影響評価書の有識者研究会」のメンバーで、環境影響評価書に議論が正確に反映されていなかったからです(注)。

二つ目の理由は、昨年10月の台風19号で海底ボーリング調査のアンカーがサンゴや海草を破壊していたことが明らかになったからです。環境監視等委員会は「ボーリング調査は環境影響評価の対象では？」(第3回議事録)と海底ボーリング調査が環境に影響を及ぼすものだと認識に欠けているので

す。だから、海底ボーリング調査の範囲を明示するフロートのアンカーを「より重くすることや形状」について議論し、「沖縄県が第三者機関として審査をする役割があるから」(第3回議事録)と自らの責任を放棄する発言をしているのです。

環境監視等委員会は沖縄県が辺野古埋め立て承認の留意事項として、「環境監視等委員会を設置して…環境保全対策の実施について万全を期すこと」を求めていたのです。私たちは2月16日に沖縄県とも交渉をしました。その時に、環境監視等委員会の無責任さについて指摘し、沖縄県が辺野古に常駐し、ダイバーを雇って海底調査をするなど自らの責任を果たすことを強く求めました。「県が『辺野古』監視へ職員常駐、独自に情報収集」(琉球新報 3月10日)をしたことは評価します。しかし、沖縄防衛局に環境監視等委員会の議事録を公開させた今こそ、「留意事項違反の疑いあり」とただちに「事前協議」を行うべきです。そして、海底ボーリング調査の中止を求めるべきです。

(注)松田裕之横浜国大教授(有識者研究会メンバー、環境監視等委員会委員)

2014年1月12日ブログ「辺野古問題」知事への答へ

< 沖縄県交渉、防衛局交渉の報告 >

2月16日夕方、翁長知事は沖縄防衛局にコンクリート製の「トンプロック」(注)の設置作業の停止と、設置したブロックを移動しないように指示しました。そして、指示に従わない場合は「岩礁破碎許可取り消しも視野にある」と明言しています。同日、私たちは沖縄県交渉、沖縄防衛局交渉をしていました。従来、沖縄県は「ボーリング調査は工事ではない」と沖縄防衛局に一任し、沖縄防衛局は学者研究者で構成された環境監視等委員会を隠れ蓑に海底ボーリング調査を強行していました。しかし、昨年10月台風19号でフロートのアンカーが大量に紛失し、アンカーがサンゴや海草を破壊していたことが明らかになりました。また、「トンプロック」を海底に放出したことでサンゴが破壊された写真が新聞各紙に掲載されて県民の批判が高まっていました。

沖縄県交渉では、サンゴや海草藻場を破壊している海底ボーリング調査の実態を把握するためにダイ

バーを派遣することを要求しました。また、昨年6月の第2回環境監視等委員会以降、議事録が公開されず、今年1月の第3回委員会後の記者ブリーフィングで中村委員長(横浜国大)が「委員会の位置づけを見直すべき」と発言し、環境保全の責任を果たせていないことが明らかなので、公有水面埋立法32条2項で承認を取り消すことを求めました。沖縄防衛局交渉では、環境監視等委員会で昨年10月台風19号でフロートのアンカーがサンゴや海草が破壊したこと、アンカーをより重くする必要があることやソフト面で工夫することなどを議論したことを確認しました。環境監視等委員会が環境保全の役割を放棄していたことが明らかになりました。

(注)「トンプロック」

海底ボーリング調査の範囲を示すフロートを固定するアンカーの役割で、10トンから45トンのコンクリート。

(事務局 峠川美音)

ジュゴン訴訟：原告の申し立て却下の判決について

去る2月13日、米国連邦地裁は、ジュゴン保護を訴える原告側の申し立てを却下する判決を下しました。ジュゴン訴訟への期待が大きかっただけに、この判決は非常に残念なものです。

これまで伝えてきたように、2003年に米国家歴史保存法のもとで提訴されたこの訴訟は、2008年に原告勝利の判決が下されましたが、2014年4月に大きな転機を迎えます。国防総省から原告に対して、辺野古基地建設が及ぼすジュゴンへの影響の検証手続きが終了した、「影響はない」という結論に至った、という通知がなされたのです。

原告にも知らされず行われた検証手続き。沖縄防衛局の環境アセスを踏襲しただけの「影響なし」の結論。原告側はその不当性を訴え、手続きのやり直し等を求める申し立てを裁判所に行いました。

そして裁判所は、外交問題や防衛問題には司法は米国憲法上関わることができないという（政治

問題の法理の）国防総省の主張を裁判所が受け入れ、原告の申し立てを却下したのです。沖縄県知事が埋立を承認し、建設工事が始まった以上、米国の司法は関われないという判断です。

しかし判決では、国防総省の手続きや「影響なし」の結論の妥当性について裁判所は一切の判断を行ってはいません。つまり2008年の原告勝利で得られた、国防総省は基地建設によるジュゴンの影響について検証すること、という命令は現在でも有効であることとなります。

現在原告側は控訴を検討しており、この手続きの不備をどのように訴えることができるかが焦点となります。また翁長雄志知事による埋立て承認の取り消しや撤回の判断も、控訴の行方に影響を及ぼすことになるでしょう。控訴の動きに注目しながら、2008年の判決を活用する動きが求められています。（沖縄 吉川秀樹）



2/16 沖縄県交渉



2/16 沖縄防衛局交渉



24時間体制で座り込みが続く
キャンプ・シュワブ前のテント



3月18日で、不屈の
座り込み 255日目



厳しい座り込みも、おまんじゅうの
差し入れでほっと一息

辺野古の闘いに参加して

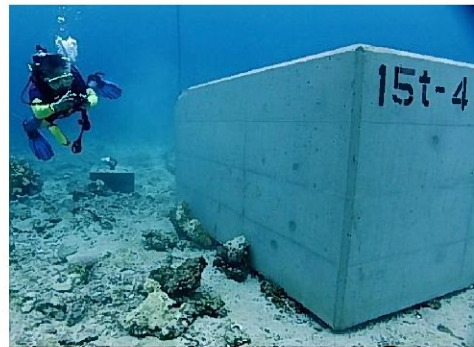
1月26日から2月末まで、7月以降調査開始から3回目の辺野古滞在でした。報道もされているとおり、1月末ごろから防衛局はコンクリートブロックを大浦湾に投入し始めました。投入され始めたころは何のためか分かりませんでしたが、臨時制限区域を示すフロートの固定のためのアンカーでした。連日カヌーと共に抗議船を出して、ブロックの投入を阻止しようと近づき、作業員に抗議。海上保安庁のゴムボートに確保され、乗取られながらです。ブロックが投入された後は、どんな状況になっているかダイビングもしました。サンゴが押しつぶされている写真を公開し、かなり広く報道され、それが翁長知事の作業中止命令や県による調査につながったように思います。しかし、沖縄防衛局は知事の動きをあらかじめ無視して作業を行いました。

22日、ゲート前で県民集会が行われる日の午前中、米軍の警備員がゲート前を指揮する山城博治さん他1名を「刑事特別法」で逮捕しました。私は集会の間中、ゲート前で博治さんが名護署に移

送されるのを監視して、移送車が出ていくのを名護署まで追いかけていきました。海の上でも陸上でも、ほんとに日常では考えられないことがおきます。博治さんは翌日解放されましたが、腹立たしいのと同時に、防衛局側の焦りも感じます。

私が帰る直前は、ゲート前の24時間監視テントの撤去の攻防でした。そんな緊迫した状況でもテント前の人たちは海上チームのことを想い、海上チームはその応援に応えます。たくさんの人から差し入れも届きます。多少のぶつかり合いもあったりしますが、新基地建設を阻止したいという心の一体感に励まされる日々でした。

(首都圏 加藤宣子)

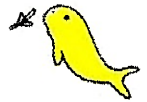


トンブロックがサンゴを踏みつぶしています。

写真：ヘリ基地反対協ダイビングチームレインボー



沖縄の旅～辺野古、伊江島を巡って～



たくさんのお会い、学びがあり、伝えたいことがいっぱいですが、一部報告します。

◆キャンプシュワブ第3ゲートから、スパット台船が浮かぶ大浦湾が見渡せる。異様な光景に無性になくなり「海を壊さないでー」と心の底から叫んだ。辺野古弾薬庫の前で、山城さんが「日本が平和は偽善、この弾薬が使われ戦争をしている。沖縄(日本)は悪魔の島、そのことを認識し行動しよう。辺野古は国の在り方を問うている。全国でつながって行動していこう」と呼びかけられた。ゲート前では歌って踊って力強い行動が繰り広げられ「コーヒー飲んでって」と声をかけてくれる温かさがある。平和の最前線、すごい場になっている。多くの人に訪れてほしい、そして、早く終わらせたい。

◆戦後70年平和が遠のいていきそうな今だから、「わびあいの里」の学習会に参加した。基調講演で高良鉄美さんが言及された憲法、伊江島、沖縄の闘いを担ってこられた先輩方のお話は今後の活動に活かしていきたい。その中で石原昌家氏が紹介された「家畜をつらい目に合わし度くない。戦争は人間がして居るのだと思うと、家畜がますます可愛くなり気の毒に思ふ…」という阿波根さんの言葉が心

に残っている。すべての命を慈しむ心だ。伊江島の陳情規定を多くの人に読んでほしい。今、権力に抗っていくために。謝花悦子さんが言われたように、いつの時も平和を学び続けたいと思う。

(関西 池側恵美子)

～わびあいの里学習会に参加して～

◆伊江島で阿波根昌鴻さんの非暴力抵抗運動を学べるということで、今回の学習会はとて心待ちにしていました。私は辺野古の運動で、カヌー隊として新基地建設に反対しています。カヌーに乗っていると、海保や防衛局の方々とのやり取りで危険なことも多く、闘い方に戸惑っていました。阿波根さんの教えを学び、対立的にならない事の大切さ、平和を創る市民運動は非暴力の徹底が重要だと実感しました。

(関西 沖野)



学習会で、SDCCから発言

~2/22 沖縄県民大会 東京大阪で同時アクション~

「仮設」はウソ！ 事実上の埋立工事をやめろ！ 辺野古と結ぶ2・22東京行動

強権的な政府の弾圧に屈せず日々闘っている辺野古現地と連帯し、東京でも新基地反対の声を大きくしていこうと、新宿の柏木公園には300名を超える市民が集まりました。

集会の冒頭でキャンプシュワブのゲート前には2800名の県民が結集していると報告があり、歓声が上がりました。しかし山城さん逮捕が報じられると、驚きに変わりました。

異様な雰囲気公安警察が公園をびっしり取り囲んでいる理由が分かりました。政府は新反基地運動の広がりを恐れ、威圧し妨害したいのです。

みな恐れることなくデモを開始。大成建設本社前では抗議の拳を突き上げ、日曜の繁華街を練り歩いて辺野古新基地建設反対を思い切りアピール。沿道の人たちの目を引き、反応も上々でした。人通りの多い新宿駅周辺はアピールにうってつけでした。

これからも「ジュゴンの海を壊すな！」の声を大きくしていきますよ！

(首都圏 蟹江)



5/24には国会包囲ヒューマンチェーン&全国同時行動が開催されます。全国で声を上げていきましょう

「沖縄・辺野古と共に 2.22 大阪アクション」

この日、辺野古ゲート前には3000名の沖縄県民が集まりました。大阪では250名が中之島水上公園に集まりました。当日朝、ゲート前行動のリーダー、山城ヒロジさんともう1名が、海兵隊の警備員によって基地内へ拘束され、その後、刑特法違反で名護警察署に引き渡されました。暴挙に大阪でも抗議の声が上がりました。

集会では現地に参加して来た仲間3名から報告があり、ゲート前で歌われている「We shall overcome」をみんなで歌いました。SDCCからは、先日の沖縄県及び沖縄防衛局との交渉結果を報告しました。また山城ヒロジさんらの海兵隊による拘束は、米軍全体の再編の中で、沖縄での基地確保に懸命な海兵隊の危機感の表れであると報告しました。

そしてデモに出発。青が目立ちます。SDCCも青のバナーに、メッセージを貼りました。

(関西 松島洋介)



ジュゴンの餌場にスパット台船が...



沖縄の旅3/5~9



ゲート前で、山城博治さんにバナーを進呈。ジュゴン帽がお似合い

ゲート前は、歌あり踊りあり♪

わびあいの里の謝花悦子さんと一緒に



『大浦湾のジュゴン』～こらむ・コラム～

日本政府は、翁長知事に会うことを未だ拒否している。会えば世界の恥さらしになると分かっているからか。どう考えても正義は沖縄側にあるため、今まで理不尽なことをしてきた、その恥を恐れてのことかも知れない。今さら「辺野古基地建設を嘘を重ねて画策して参りましたが、実にすみませんでした。手をついてあやまりますので、どうぞお許してください。そこで改めてのお願いですが、辺野古移設をご理解頂いて、ご容認を頂きたい。」とは、恥ずかしくてとても言えまい。

しかし、日本政府をここまで追い詰めてきた原因は何か？を考えると、結局、ジュゴンと天皇制国家の古代史偽装問題に行き着くことになる。国民が記紀神話の嘘で形成された神国日本の妄想を、戦後70年間も解消せずに放ったらかしてきた、そのことで、辺野古問題は生じたと言っている。特に戦前のような、天皇の統治する美しい国への回帰をめざす安倍総理にとって、ジュゴンの存在は絶対に認めてはならないはずである。うっかり認めてしまうと

保護せざるを得ない。そうなると、明治維新以来国民を騙し続けてきた皇統の系図の嘘が、ジュゴンの歴史的文化的研究によってばらされることになる。即ち、安倍さんの自慢する美しい国は、恥をかいて瓦解する恐れがあるということなのである。

しかも沖縄は、今なおジュゴンを海神・龍宮神と崇拝し、守護神として祭り続けてきた、かつての独立国・大琉球の地である。大の字を沖縄ではウフまたはウブと発音するが、それは「龍宮神を崇拝し祭ることで、龍宮神に守護される」との宗教哲学的意味を現した言葉のこと。即ち龍宮神信仰の「人、地域、国」を指すもので、言葉を代えれば「如何なる事態にあっても戦争をしない」という絶対平和主義を海外に向けて表明したのが「大琉球国」であったことになる。従ってそれは、明治開国以来軍事大国の道歩いてきた大日本帝国の大とは相容れない真逆の思想なのである。今、沖縄のアイデンティティーが大浦湾の「ウフ」に集約されることが、事態を打開する力になると考える。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

① わんさか通信 ★ ジュゴンの ①

～ジュゴンマスコット作り教室を開催～

基地に頼らない地域づくりが進んでいる名護市。わんさか大浦パークではジュゴングッズの販売が始まっています！今回は「じゅごんの里」コーディネートで「ジュゴンマスコット作り教室」を開くことができました。3月9日当日、参加者が7名も。「辺野古に基地は絶対だめ、守ろうという気持ちを広げたい、マスコットを作って座り込みの人たちに届けたい」とゲート前に通う人。「名護らしいものをお店に置きたい」と名護市場でお店を開いている人。「民泊をしているので子ども達と一緒に作りたい」と二人のおばあなど、みなさん思いを持って参加して下さいました。



ちくちく縫いながらおしゃべりも弾み楽しい場になりました。ジュゴンは龍宮神として祀られているんですよと言うと、おばあが「御嶺ね。あちこちにあるさー」と。ジュゴンの棲む海が守られ、エコツアーや平和学習で賑やかになり、平和の観光スポットになった時、ジュゴングッズが人気のお土産品になっていることを思い描いています。今回の取り組みはフラワーフェスティバルの一環で市の広報にも載りました。そうそう、わんさか大浦パークの海が眺められる入り口にジュゴンのレプリカが飾られています！ジュゴンで地域おこしが進んでいきそうです。（関西 池側恵美子）

フィリピンレポート
～後編～

ジュゴンスタディツアーに参加して
(2014年12/1-9)

プハダ湾での調査が終了し、12月4日はマリタに向けて、マティ〜ダバオ〜マリタの長距離移動です。

5日は、マリタ市役所で市長さんを表敬訪問しました。その後SPAMAST(南フィリピン農業海洋技術大学)を訪問し、教職員・生徒の歓迎を受け、セミナーに参加しました。自治体・教育機関との連携を目の当たりにしてスタディツアーの歴史を実感しました。

いよいよ6日・7日とニューアルガオの浜で海草の調査です。ジュゴンが頻繁に訪れる浜の海草の生育状況を調査するのが目的です。この浜ではほぼ100%ジュゴンが目撃できるとあって期待がふくらみます。浜の監視小屋に登り、海を一望すると静かな浜にジュゴンが今にも現れそうな雰囲気です。

まずは、海草のサンプル採取です。海底の砂地に根を張った海草を水中ナイフで約20センチ四方に切り取ります。切り取ったサンプルを網の中に入れて浜に運びます。浜でゴミと海草を選別して海草のみをビニール袋に入れて日本に持ち帰り分析するそうです。

次に岸辺の海草の生え際から沖に向かって水底にロープを100m張って、周辺の海草の生息状況をメモしていきます。これまで調査してきたポイント数カ所を調査し、海草

の変化を記録しています。

ニューアルガオの浜の周辺でもジュゴンに与える脅威は増えています。大雨が降るとバナナプランテーションから大量の赤土が海に流れ込み海を汚します。また、石炭火力発電所の建設が進んでいて、温排水や棧橋建設などジュゴンの生息に影響を与えるのではと懸念されています。

初めてスタディツアーに参加して、地元の自治体・教育機関と連携しジュゴン保護に取り組んできた歴史を学びました。そしてこの手つかずの自然を残し、ジュゴンの生息地を保全して行かなくてはと改めて感じました。この経験を沖縄のジュゴン保護に生かしていければと思います。

(首都圏 三村昭彦)



わんさか大浦公園に出来たジュゴン像

出来た〜♡

ジュゴンで〜す☆



出来上がったマスコットを手に記念撮影



それぞれの思いを込めてちくちく♪

<第15回SDCC総会のご案内>

日時：4月17日(金) 午後7時～9時
 会場：きゅりあん6階中会議室
 (JR京浜東北線・大井町下車徒歩1分)
 議事：海勢頭豊代表あいさつ
 ジュゴン訴訟の現局面(吉川秀樹国際担当)
 今後の取り組みについてなど
 ※参加費無料、会員外の方も大歓迎です。
 お気軽にご参加ください。

《 今後のスケジュール 》

【首都圏】

- ・4/17(金) 防衛省・環境省・外務省との交渉
- ・4/18-19 アースデイ東京2015 @代々木公園
- ・『沖縄・辺野古に基地はいらない! 4、26 渋谷サウンドパレード』16時～渋谷にて(15:30 宮下公園集合/予定)
- ・「5・24 国会包囲ヒューマンチェーン」14時～15時半

【関西】

- ・4/30(木) じゅごん茶話会 14時～16時 @関西事務所
- ・5/17(日) ジュゴンでトレイン!
- ・5/24(日) 国会包囲全国同時アクション

<第15回総会方針・決算案の概括>

辺野古現地とむすび東京、大阪で埋め立て阻止の共同行動を広げ、翁長県政を支えることが今年の軸です。また、2016年9月IUCN第5回世界自然保護会議にむけて世界に発信します。

<活動方針>

- ①4月17日(予定)政府交渉②5月17日ジュゴンでトレイン③5月24日国会包囲・全国アクション④6月14日戦後70年記念・「GAMA月桃の花」上映(大阪)⑤7月3～5日じゅごんの里ツアー⑥夏休み写真展⑦今秋に満月まつり⑧11月末に政府交渉、署名提出などです。HP(英語版)の充実も必要です。6月に新しいリーフレットを発行します。

<決算>

決算では、箸置き(陶器のシーサー、ジュゴン)を新たに販売するなど事業活動が充実しています。会員は昨年より16人減。名護市議選・知事選カンパなどでカンパが21万円増。選挙支援活動で交通費、宿泊費が増えましたが、緊縮会計で借入金の残分(264810円)を返済、翌年度に33万4459円繰り越すことができました。収支は26万3281円—232万8822円=33万4459円です。

※第10回じゅごんの里ツアー(沖縄)

*今年も、辺野古現地を訪れるスタディツアーを開催します。緊迫した情勢の下での開催となりますが、基地建設の現状を知り、辺野古・大浦湾の自然に触れ、地元の方々と交流するツアーを計画しています。どうぞぜひご参加ください。ツアー費用には、SDCCの今年度会費2000円が含まれています。会費納入済みの方は2000円引きです。

日程：7月3日(金)～5日(日)

ツアー費用 関西発着 75000円(予定)
 東京発着 80000円(予定)

※費用内訳：飛行機・宿泊2泊・船・ガイド料・レンタカー・食事代(1日目の夕食～3日目の昼食まで)

※申し込み締め切り 6月10日 現地参加6/23(火)

※現地参加や部分参加、その他詳細については下記事務所までお問い合わせください。



Editor's Note シュラブゲート前の国道は、両側を基地に挟まれ、大浦湾が見えるのは唯一第3ゲートと呼ばれる小さなゲート前だけ。基地ができるまで、このあたりは、二見から辺野古、久志へと続く街道だったとか。人も物も行きかっ、海にはヤンバル船が浮かんで、地域の豊かな情景が心に浮かび、基地は要らないという思いが、なお一層強くなりました。(山根富貴子)

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.79 2015年3月24日発行
 ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
 第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
 ○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
 (関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
 TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:

加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター

口座番号 00140-9-660199

他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店

口座番号 普通 8159084

ちゃんぶるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
 お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!